

2025.2.25

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

- 傍線部①の意味を、次のア～エから選んで記号で書きましょう。  
 ア かばうことができない。  
 イ 言い逃れができない。  
 ウ 見過ごすことができない。  
 エ 関係ないではない。
- 傍線部②の意味を、次のア～エから選んで記号で書きましょう。  
 ア 代々伝わっている重要な会議  
 イ 議事録  
 ウ 議事録を守るための防具  
 エ いかげずという手段

## 百条委への信頼傷つけた

齋藤元彦兵庫県知事への告発文書問題を巡る真偽不明情報の拡散に、日本維新の会所属の複数県議員が関与していたことが明らかになった。

増山誠、岸口美、白井孝明の3県議員が23日会見し、政治団体「NHKから国民を守る党」の立花孝志党首に、県議会調査特別委員会(百条委)の非公開情報を提供したなどと認め謝罪した。だが、提供の経緯や目的には理解に苦しむ点が多い。

特に、知事の疑惑を調査する百条委の副委員長だった岸口氏と委員だった増山氏が、自らも賛成した非公開のルールを①脱して情報を外部に漏らした行為は②看過できない。

百条委は首長や自治体の不正を追及する強い権限を有し、地方議会の③「伝家の宝刀」とされる。その信頼を傷つけた責任は重大だ。

会見によると増山氏は昨年10月

百条委が知事選への影響を考慮して秘密会とした質問の音声を録音し、知事選告示日の同日に立花氏にデータを提供した。音声には、百条委が調査対象外とした元西播磨県民局長の私的情報に触れた片山安孝元副知事の発言を、委員長が制止する場面が含まれていた。

岸口氏はその翌日、今年1月に亡くなった竹内英明前県議らが知事失職の「黒幕」だと名指した文書を立花氏に渡す場面に同席した。

増山氏は、立花氏の発信力で「県民に広く事実を伝え、正しい判断をしてほしかった」と主張した。裏で他陣営に情報を流すのではなく、議論の場で非公開に反対し、自らの責任で有権者に訴えるのが筋である。

一方、岸口氏は提供した文書の内容が「事実が判断できなかった」と述べた。それが拡散される可能性は認

識していたはずだ。どちらも議員の資質に欠けると言わざるを得ない。

立花氏は齋藤氏を応援する目的で知事選に立候補し、受け取った情報をインターネット上で公開した。その結果、「百条委は真実を隠している」との臆測や、竹内氏ら百条委委員への誹謗中傷が拡散された。

維新は2021年知事選で齋藤氏を推薦し、文書問題でも擁護する姿勢が目立った。だが批判の高まりで一転、県議会の不信任決議で賛成に回った経緯がある。その判断を棚に上げ、不確かな情報で齋藤氏の再選を後押しする意図があったとすれば選挙の公正さを損なう悪行であり、有権者への裏切りにはかならない。維新は事実関係と影響を検証し、党として厳正な処分を下すべきだ。

百条委は近く文書問題に関する報告書を公表する。知事の「パウハラ認定」に慎重だった維新会派が意見を撤回し、合意に至る見通した。結論に疑義が生じないよう、県民への丁寧な説明が欠かせない。

3 維新の会の県会議員は表と裏で違うことをしてしまいました。次の表の空欄に、本文中から解答欄に合わせて適語を抜き出して入れましょう。

	百条委員会を非公開とする	知事の不信任決議
表	<input type="text"/>	<input type="text"/>
裏	増山議員は秘密会とした <input type="text"/>	岸口議員は竹内英明前県議らが <input type="text"/>
	し、立花氏に <input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	だとする 文書を立花氏に渡す場面 に同席した。

# NIEワークシートのこたえ（2025年2月25日公開）

## ◆ワークシート「維新の情報提供(国語・社会)」 2025.2.25日付 朝刊 4面 解答

1 (ウ)

2 (エ)

3

	百条委員会を非公開とする	知事の不信任決議
表	賛成	賛成
裏	増山議員は秘密会とした尋問の音声 <sup>①</sup> を録音し、立花氏にデータ <sup>②</sup> を提供した。	岸口議員は竹内英明前県議らが知事失職の「黒幕」 <sup>③</sup> だとする文書を立花氏に渡す場面に同席した。